

令和8年度都立足立新田高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
英語	コミュニケーションの土台となる基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・全校実施の英単語テストと関連付けて授業内・定期考査で単語テストを実施し、語彙力を向上させる ・授業内でのペアや全体のスモールトークやアクティビティにより英語で話すこと・発表することを日常化させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに関連したアクティビティやパフォーマンステストを実施することで、英語でのプレゼンテーション能力を向上させる。
数学	・数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象の数学化・数学的な解釈・数学的に表現・処理する技能を身に付けるための教材開発 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度の評価を取り入れた授業の実施
国語	・「書くこと」の指導の充実 ・「話すこと・聞くこと」の指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の教科会で年間指導計画について共有、指導事項について確認 ・「話し合うこと」の指導に関する言語活動に関する科内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等主催の小論文コンテストへの応募 ・オンライン活用時の「話し合うこと」についての指導方法の開発
理科	「探究の過程」を踏まえた学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、グループワークを通して、課題の解決を目指して、論理的に考える力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究の過程」を踏まえた授業の相互参観を実施 ・大学入試レベルの問題に取り組む。
社会	国際社会を生き抜くための基礎学力の向上と現代社会の考察力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料集、ワークシートなどの諸史資料から適切な情報を調べ発表する。 ・授業内で時事問題を取り扱い、現代社会での諸問題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な史資料の読み取りを通して、歴史的な事象や現代社会について考察したことを相互共有し、自らの考えを深める授業を実施する。 ・時事問題に対する自分の立場を表現し、現代社会を考察する時間を設定する。
体育	体力の向上 運動に慣れ親しむ態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動で補強運動を行う。 ・協働的な学びを深めるために技能を教え合うペアワークを取り入れる。 ・ロードレース大会の実施(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の学び方、体力の高め方について協働的・探究的な学びができるよう、相互学習の機会を設定する。
家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習や講義等の授業を通して、課題を見だし、その解決を目指して思考を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と周りの人々について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につける。
芸術	現在の社会情勢や文化観、歴史や伝統などをもとに自由な自己の表現を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実技・実習の授業を通して、自己を見つめ、その表現を目指して技術的理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的な理解の上に立ち、自分なりの表現を実現させる。
情報	「課題解決」につながる実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書選定時に課題解決型実習を多く掲載しているものを選定 ・民間補助教材を導入し、社会課題の解決を題材とした実習教材を導入 ・情報Ⅰ各単元の最終課題で、グループ(協働学習)による探究的な実習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報Ⅱで民間のプログラミングコンテスト(ハッカソン)に参加 ・プログラミングやデータ活用などの分野で活躍する専門家を招聘し、情報で学ぶ技術の実社会での活用について学習